

諏訪の景気動向

平成23年 8月

(平成23年 7月末 D・I調査)

平成23年8月25日
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成 23 年 7 月末）

「平成 23 年 7 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方 184 社のご協力を得て行った 7 月末の「景気動向調査（D I 調査）」では、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断D I は 19.3 と東日本大震災の影響が多大であった前回調査時（平成 23 年 4 月末、以下同）の Δ 18.2 から 37.5 ポイント改善し 4 期振りにプラスに転じた。

製造業の業況判断D I は 13.0 と前回調査時の Δ 14.1 から 27.1 ポイントの改善、非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の同D I は 35.3 と前回調査時の Δ 27.7 から 63.0 ポイントの改善となっている。また、4 月末の前回調査時には、東日本大震災の影響がまだ不透明であったことから「3 ヶ月後」の業況予想D I は製造業が Δ 24.4、非製造業が Δ 27.8 とマイナスでの推移であったが、今回調査の「3 ヶ月後」の業況予想D I は製造業が 13.6、非製造業が 5.9 と緩やかな回復傾向が見込まれている。

製造業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断D I は、「好転」企業 29.8%、「悪化」企業 16.8%で同D I は 13.0 と前回調査時の Δ 14.1 から 27.1 ポイント改善し、4 期振りにプラスに転じた。また、先行きに関する「3 ヶ月後」の業況予想D I でも、「横這い」とする企業が 65.2%と最も多いものの、「好転」企業が 24.2%、「悪化」企業が 10.6%で同D I は 13.6 と前回調査時の Δ 24.4 から改善し引き続き改善傾向が見込まれている。

一方、「3 ヶ月前」と比べた収益性D I は Δ 9.9 と前回調査時の Δ 26.8 からは改善しているものの、コストダウン要請などからプラス転換とはいかず、「3 ヶ月後」の収益性予想D I も Δ 5.3 と 5 期連続のマイナス推移と厳しい状況が予想されている。

今回調査では、全ての規模及び業種で「3 ヶ月前」と比べた業況判断D I はプラス転換しており、震災後の混乱からは回復し正常化が進んでいることが読み取れる。また、ヒアリング調査では今年度の下期にかけて自動車関連等で震災後の減産分の挽回のため増産が見込まれており、短期的な先行きに関しては比較的堅調な見方をする企業もみられる。ただし、大幅な円高や電力供給の問題、また大手企業の海外生産比率の更なる引き上げ等が引き続き懸念材料として危惧されている。

商業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断D I は 43.8%の企業で「好転」したとして、同D I は 31.3 と前回調査時の Δ 17.7 から大幅に改善し 4 期振りにプラスに転じた。また、客単価D I 及び来店客数D I のいずれもプラスに転換した。

諏訪地方の梅雨明けは平年より 12 日早く、平均気温も平年よりかなり高かったことから夏季商材の動きは総体的に堅調となった。食料品では気温の上昇から飲料や果物などの動きは好調だったが、例年は行楽需要の盛り上がる牛肉の販売量は放射能関係の風評被害等から落ち込んだ。

家電店では 7 月 24 日のデジタル放送への完全移行を前に関連商品の駆け込み需要がみられた一方、自動車販売では諏訪地方の 7 月の車庫証明件数は 838 台と前年同月比 Δ 280 台（ Δ 25.0%）の大幅な減少となった。震災の影響による自動車の供給不足は緩和されつつあるが、前年の 7 月がエコカー補助金の駆け込み需要のあった時期であり、その反動から減少幅が拡大した。

観光・サービス業は、震災の影響が顕著にあった「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iでは76.2%の施設が「好転」として同D Iは76.2、「宿泊客数D I」では85.7%の施設が「好転」として同D Iは80.9と大幅な回復となった。

諏訪湖周辺や高原のホテル旅館では、個人客に加え、学校関係の合宿や林間学校、または研修旅行などの団体客の取り込みも堅調であることから、足元の宿泊客数は増加傾向となった。ただし、「前年同期」と比べた客単価D Iは57.1%の施設で「悪化」として、同D Iは $\Delta 42.8$ と前回調査時の $\Delta 76.2$ からは回復しているものの、依然としてマイナスでの推移となっている。

今後の秋の観光シーズンの見通しとしては、春に震災の影響でキャンセルになった団体客の戻りを期待する声がかかれ、「3ヶ月後」の業況予想D Iでも42.9%の施設で「好転」を見込んでおり、同D Iは23.9と前回調査時の $\Delta 14.3$ からプラス転換が期待されている。

建設業の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta 21.4$ と前回調査時の $\Delta 12.5$ から8.9ポイント悪化し、引き続きマイナスでの推移となっている。平成23年度に入り公共工事の発注は減少傾向にあり、住宅着工も弱含んでいることなどから「3ヶ月後」の業況予想D Iでは「好転」を見込む企業はなく、「横這」企業85.7%、「悪化」企業14.3%で同D Iは $\Delta 14.3$ と、引き続き厳しい経営環境が予想されている。

諏訪地方の6月の新設住宅着工戸数は94戸で、前年同月の103戸に比べ $\Delta 9$ 戸($\Delta 8.7\%$)の減少となった。また、平成23年4月から6月までの累計着工戸数は253戸で前年と同数、前年と比べた利用関係別では「持家」が+15戸増加の205戸、「貸家」が $\Delta 15$ 戸減少の38戸、「給与」は $\Delta 1$ 戸減少の0戸、「分譲」は+1戸増加の10戸となっている。

雇用状況は、平成23年6月の諏訪地方の有効求人倍率は前年同月を+0.07ポイント上回り0.64倍と前年同月を15ヶ月連続で上回っているが、依然として低水準で推移している。また、長野県と同倍率は0.71倍、全国と同倍率は0.63倍となっている。

なお、諏訪地域の6月の新規求人数(全数)は1,319人で前年同月比+82人(+6.6%)の増加、新規求職者数は1,131人で前年同月比+115人(+11.3%)の増加となっている。また、1件10人以上の人員整理は1件15人で、事業主都合による雇用保険資格喪失者は57人と前年同月より $\Delta 32$ 人、前月より $\Delta 18$ 人減少した。

業況判断D Iの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社（182社）の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは「好転」企業が34.1%、「横這」企業が51.1%、「悪化」企業が14.8%で同D Iは19.3と前回調査時の△18.2から37.5ポイント改善し4期振りにプラスに転じた。

製造業の業況判断D Iは「好転」企業29.8%、「横這」企業53.4%、「悪化」企業16.8%で同D Iは13.0と前回調査時の△14.1から27.1ポイント改善するなど、全ての規模及び業種で業況判断はプラス転換しており、震災後の混乱からは回復し正常化が進んでいることが読み取れる。

また、非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断D Iも35.3と前回調査時の△27.7から観光業の改善を主因に63.0ポイントの大幅な改善となっている。

産業別業況表

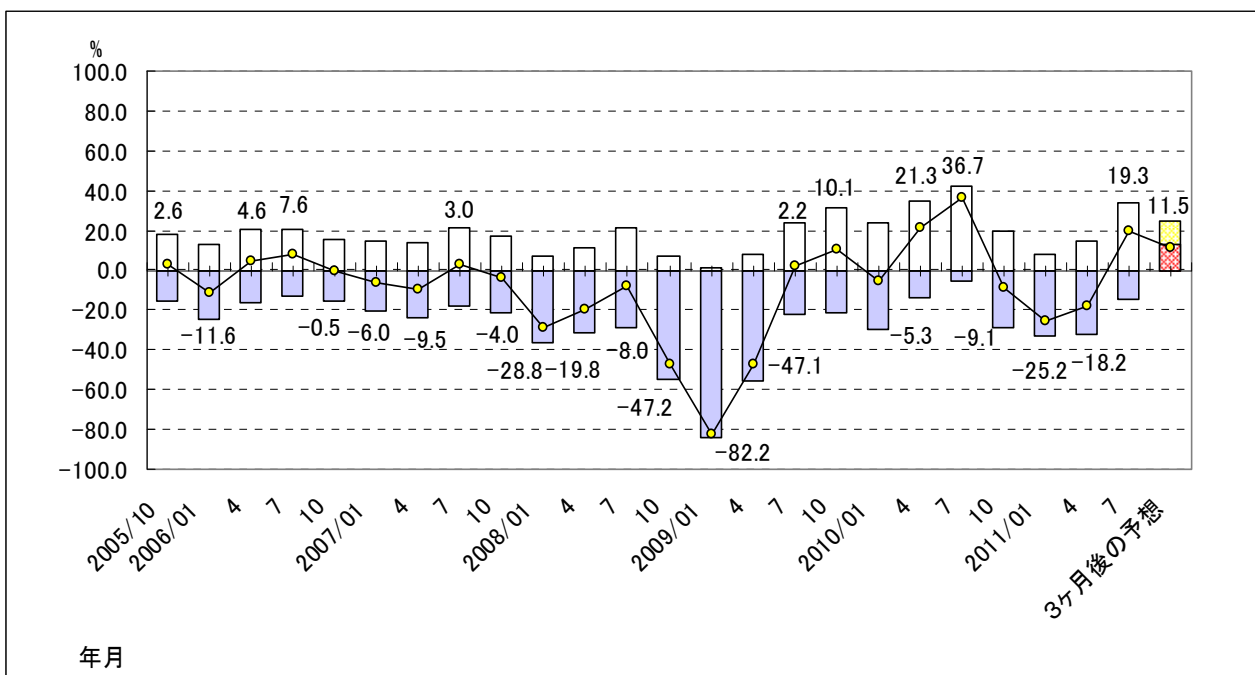
（企業数・%） 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	182	34.1	51.1	14.8	19.3	184	24.5	40.2	35.3	-10.8	183	24.6	62.3	13.1	11.5
製造業	131	29.8	53.4	16.8	13.0	133	24.8	41.4	33.8	-9.0	132	24.2	65.2	10.6	13.6
非製造業	51	45.1	45.1	9.8	35.3	51	23.5	37.3	39.2	-15.7	51	25.5	54.9	19.6	5.9
商業(大型店)	16	43.8	43.8	12.5	31.3	16	25.0	50.0	25.0	0.0	16	25.0	50.0	25.0	0.0
建設業	14	0.0	78.6	21.4	-21.4	14	14.3	35.7	50.0	-35.7	14	0.0	85.7	14.3	-14.3
観光・サービス	21	76.2	23.8	0.0	76.2	21	28.6	28.6	42.9	-14.3	21	42.9	38.1	19.0	23.9

自社業況判断D Iの推移

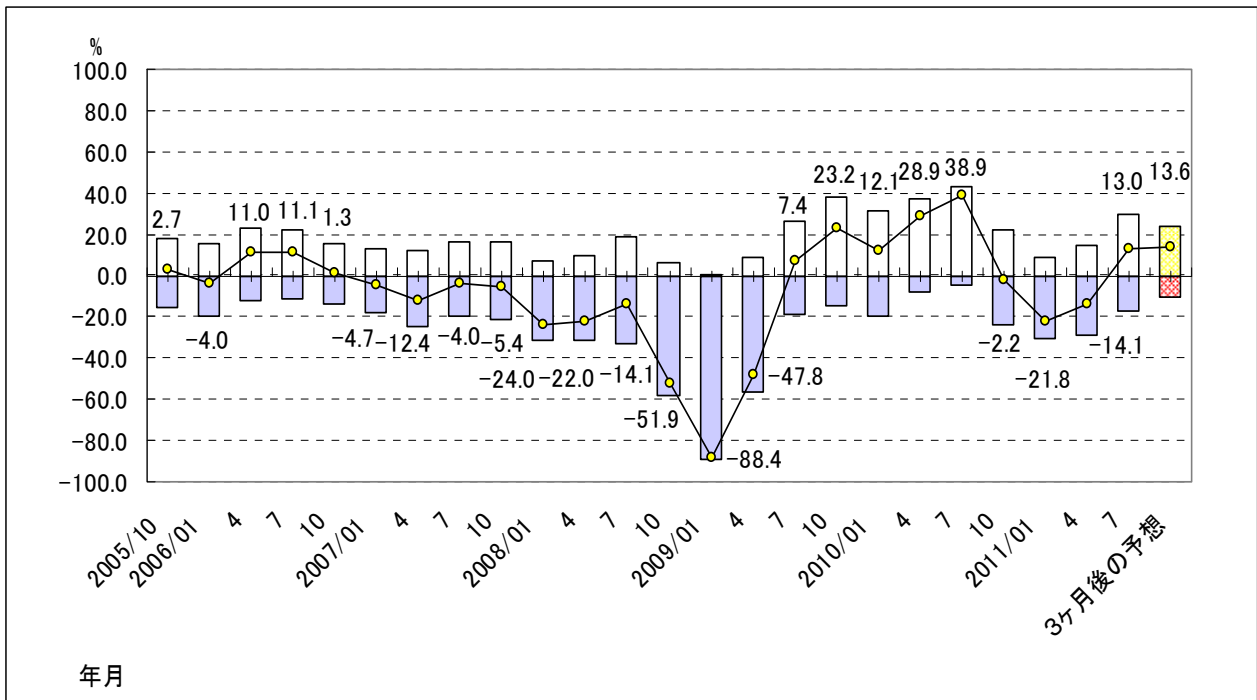
●回答全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ-1



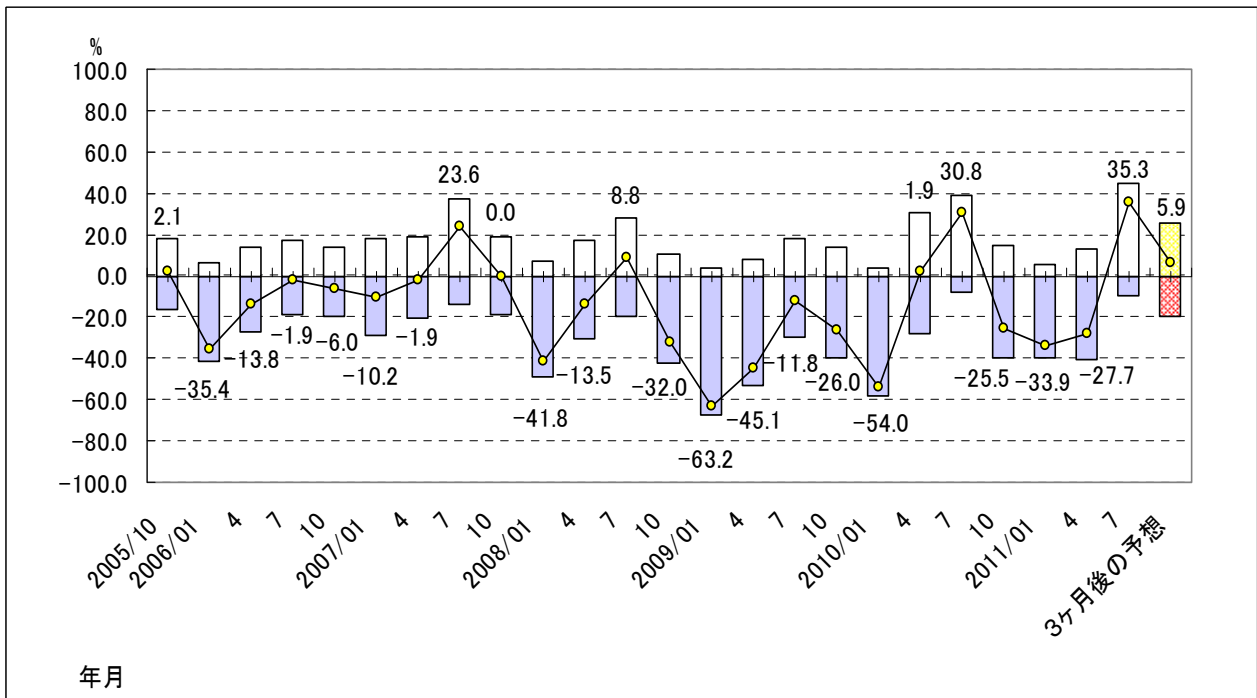
●製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-2



●非製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-3



産業別景気動向

1. 製造業

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」企業 29.8%、「悪化」企業 16.8%で同DIは13.0と前回調査時の△14.1から27.1ポイント改善し、4期振りにプラスに転じた。また、先行きに関する「3ヶ月後」の業況予想DIでも、「横這い」とする企業が65.2%と最も多いものの、「好転」企業が24.2%、「悪化」企業が10.6%で同DIは13.6と前回調査時の△24.4から改善し引き続き改善傾向が見込まれている。

「3ヶ月前」と比べた収益性DIは△9.9と前回調査時の△26.8からは16.9ポイント改善しているものの、コストダウン要請などからプラス転換とはいかず「3ヶ月後」の収益性予想DIも△5.3と5期連続のマイナス推移と厳しい状況が予想されている。

「3ヶ月前」と比べた受注状況は「増加」企業 35.4%、「減少」企業 24.6%で同DIは10.8と前回調査時の△13.6から24.4ポイント改善し4期振りにプラスに転じた。ただし、「前年同期比」の受注状況DIでは「減少」企業が36.9%あり、同DIは△7.7と前回調査時の△5.6から僅かではあるがマイナス幅が拡大した。また、「3ヶ月後」の受注予想DIでは29.2%の企業が引き続き「増加」を予想しており、同DIは16.9と前回調査時の△21.6からプラス転換した。

業種別の「3ヶ月前」と比べた受注状況DIは主要5業種の全てでプラス転換した。なかでも、輸送用機械の53.3%、金属製品の40.0%の企業で受注は「増加」しておりDI値も大幅な改善となっている。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	131	29.8	53.4	16.8	13.0	133	24.8	41.4	33.8	-9.0	132	24.2	65.2	10.6	13.6	
規模	1～29人	58	25.9	58.6	15.5	10.4	59	23.7	52.5	23.7	0.0	59	15.3	69.5	15.3	0.0
	30～99人	44	36.4	45.5	18.2	18.2	45	28.9	33.3	37.8	-8.9	44	29.5	63.6	6.8	22.7
	100人～	29	27.6	55.2	17.2	10.4	29	20.7	31.0	48.3	-27.6	29	34.5	58.6	6.9	27.6
中分類	金属製品製造業	15	33.3	46.7	20.0	13.3	15	13.3	33.3	53.3	-40.0	15	20.0	73.3	6.7	13.3
	一般機械器具製造業	34	26.5	58.8	14.7	11.8	35	31.4	48.6	20.0	11.4	35	17.1	71.4	11.4	5.7
	電気機械器具製造業	28	25.0	60.7	14.3	10.7	29	24.1	37.9	37.9	-13.8	28	17.9	75.0	7.1	10.8
	輸送用機械器具製造業	15	53.3	20.0	26.7	26.6	15	13.3	46.7	40.0	-26.7	15	53.3	46.7	0.0	53.3
	精密機械器具製造業	13	23.1	69.2	7.7	15.4	13	38.5	46.2	15.4	23.1	13	7.7	84.6	7.7	0.0

①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは「好転」企業 33.3%、「悪化」企業 20.0%の同D I 13.3で前回調査時の0.0からは小幅ながら改善した。一方、「前年同期比」の業況判断D Iでは53.3%の企業が「悪化」したとして同D Iは Δ 40.0と5業種の中で最もマイナス幅が拡大している。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは11.8と前回調査時の Δ 6.0から17.8ポイント改善した。また、「前年同期比」の業況判断D Iは11.4、「3ヶ月後」の業況予想D Iは5.7といずれの比較でも「横這」とする企業割合が多くなっており、落ち着いた推移となっている。

●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは10.7と前回調査時の Δ 19.2から29.9ポイント回復した。ただし、前回調査時には42.3%の企業で「好転」として19.2だった「前年同月比」の業況判断D Iは、今回の調査では37.9%の企業で「悪化」したとして Δ 13.8と水面下になった。

●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

前回調査時は自動車関連が東日本大震災によるサプライチェーン寸断の影響を大きく受けており、「3ヶ月前比」、「前年同期比」、「3ヶ月後の予想」の全てで「悪化」企業の割合が最も高く、各D I値も大幅なマイナスとなっていた。今回の調査時にはサプライチェーンの回復も進み、「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iでは53.3%の企業が「好転」しており同D Iは26.6と、前回調査時の Δ 35.3から大幅に回復した。また、今後も震災後の減産分の挽回でのため増産が見込まれており、「3ヶ月後」の業況予想D Iも53.3と高水準になっている。

●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断は、「横這」企業の割合が69.2%と最も多いものの同D Iは15.4と前回調査時の Δ 33.3から回復している。また、「前年同期比」の業況判断では「好転」企業の割合が38.5%と5業種の中で最も多く同D Iも23.1とプラス幅が拡大している。

②規模別業況

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは全ての規模でプラスに転換した。一方、「前年同期」と比べた業況判断D Iでは「100人以上企業」の48.3%、「30~99人企業」の37.8%で「悪化」したとしている。また、先行きに関して「3ヶ月後」の業況予想D Iは、「100人以上企業」が27.6、「30~99人企業」が22.7、「1~29人企業」が0.0と大きい規模ほど「好転」を予想している。

③受注状況D I（規模別、業種別）

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた受注状況は「増加」企業 35.4%、「減少」企業 24.6%で同D I は 10.8 と前回調査時の△13.6 から 24.4 ポイント改善し4期振りにプラスに転じた。ただし、「前年同期比」の受注状況D I では「減少」企業が 36.9%あり、同D I は△7.7 と前回調査時の△5.6 から 僅かではあるがマイナス幅が拡大した。また、「3ヶ月後」の受注予想D I では 29.2%の企業が引き続き「増加」を予想しており、同D I は 16.9 と前回調査時の△21.6 からプラス転換した。

規模別の「3ヶ月前」と比べた受注状況D I では各規模とも「増加」企業の割合が最も高く、なかでも「30～99人企業」では 40.9%の企業が「増加」したとして同D I は 13.6 と、前回調査時の△20.0 から 33.6 ポイントの大幅な改善となっている。一方、「前年同期比」の受注状況D I では「30～99人企業」の 43.2%の企業で「減少」として同D I は△11.4、「100人以上企業」では 50.0%の企業で「減少」として同D I は△25.0 と前回調査時から引き続き水面下での推移となっている。また、「3ヶ月後」の受注予想D I では各規模とも「不変」とする企業が最も多いものの、「増加」を見込む企業が「30～99人企業」で 38.6%、「100人以上企業」で 35.7%あり、D I 値もプラス転換しており引き続きの回復が見込まれている。

業種別の「3ヶ月前」と比べた受注状況D I は主要5業種の全てでプラス転換した。なかでも、輸送用機械の 53.3%、金属製品の 40.0%の企業で受注は「増加」しておりD I 値も大幅な改善となった。一方、「前年同期比」では輸送用機械の 46.7%、金属製品の 40.0%で受注は「減少」しており、前回調査に引き続き水面下での推移となっている。「3ヶ月後」の受注予想D I では、輸送用機械の 66.7%で「増加」を見込み、「減少」を予想する企業がないことから同D I は 66.7 と、サプライチェーンが混乱していた前回調査時の△52.9 から一転し大幅な改善となった。また、精密機械では「横這」を見込む企業が 76.9%と最も多いものの、「増加」企業 7.7%、「減少」企業 15.4%で同D I は △7.7 と5業種の中で唯一マイナス予想となっている。

業種別・規模別受注状況表

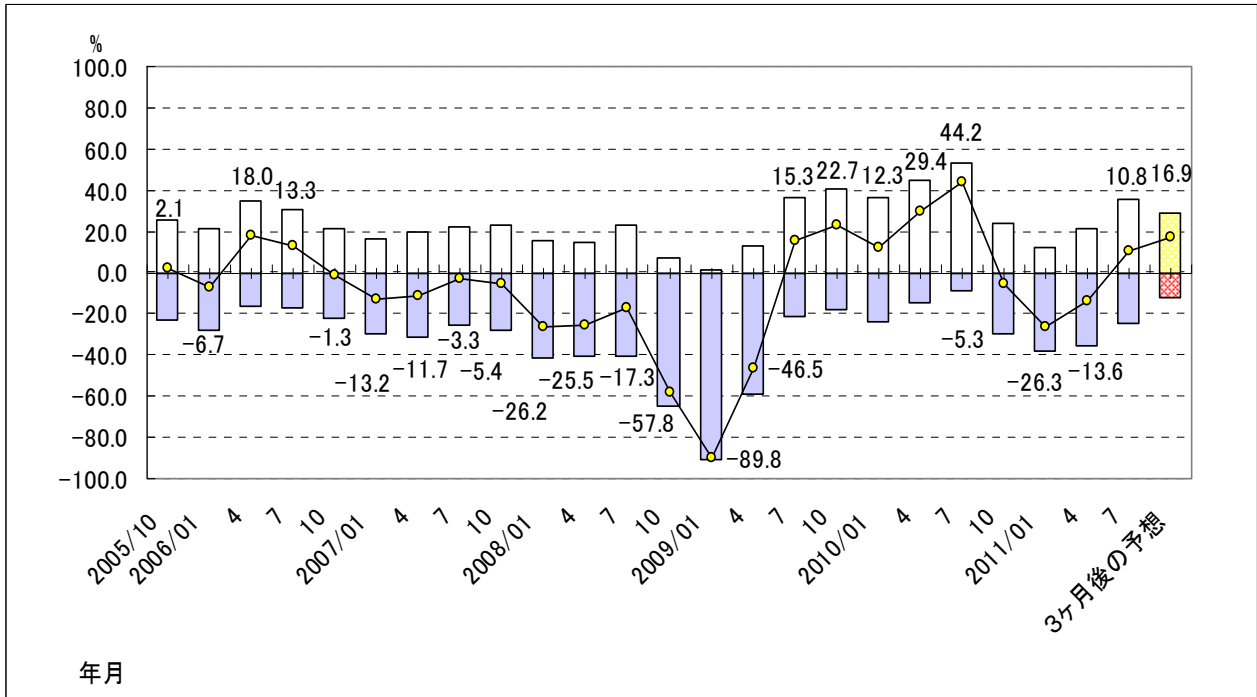
表-3

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	130	35.4	40.0	24.6	10.8	130	29.2	33.8	36.9	-7.7	130	29.2	58.5	12.3	16.9	
規模	1～29人	58	32.8	46.6	20.7	12.1	58	29.3	44.8	25.9	3.4	58	19.0	69.0	12.1	6.9
	30～99人	44	40.9	31.8	27.3	13.6	44	31.8	25.0	43.2	-11.4	44	38.6	54.5	6.8	31.8
	100人～	28	32.1	39.3	28.6	3.5	28	25.0	25.0	50.0	-25.0	28	35.7	42.9	21.4	14.3
分類	金属製品製造業	15	40.0	40.0	20.0	20.0	15	20.0	40.0	40.0	-20.0	15	26.7	66.7	6.7	20.0
	一般機械器具製造業	34	32.4	47.1	20.6	11.8	35	42.9	37.1	20.0	22.9	35	25.7	62.9	11.4	14.3
	電気機械器具製造業	27	29.6	40.7	29.6	0.0	26	26.9	26.9	46.2	-19.3	26	26.9	57.7	15.4	11.5
	輸送用機械器具製造業	15	53.3	20.0	26.7	26.6	15	20.0	33.3	46.7	-26.7	15	66.7	33.3	0.0	66.7
	精密機械器具製造業	13	30.8	53.8	15.4	15.4	13	38.5	38.5	23.1	15.4	13	7.7	76.9	15.4	-7.7

製造業の受注状況D Iの推移

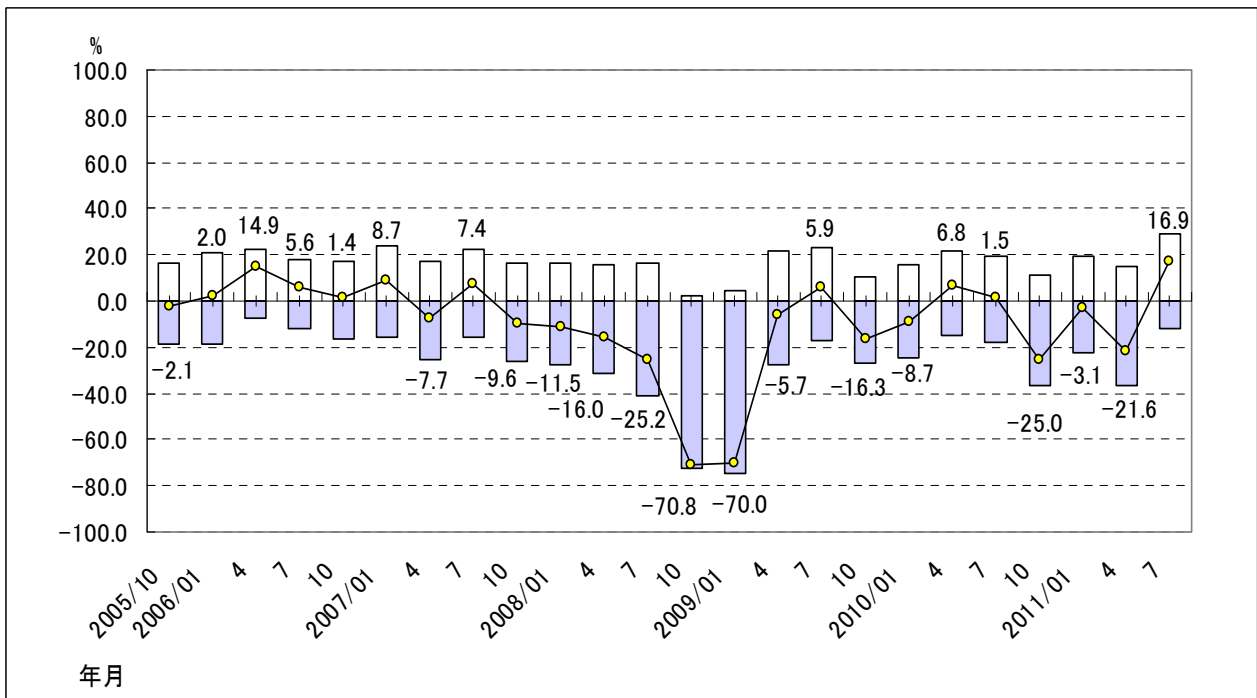
●製造業全社：「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iの推移

グラフー4



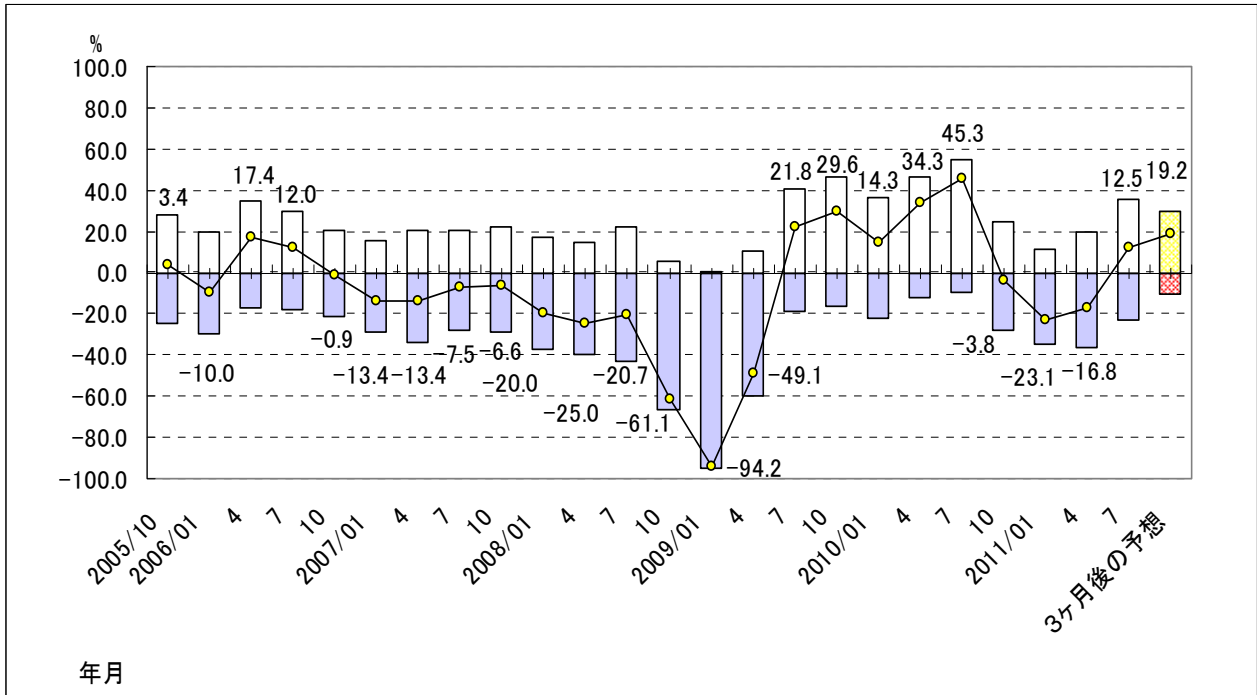
●製造業全社：「3ヶ月後」の受注予想D Iの推移

グラフー5



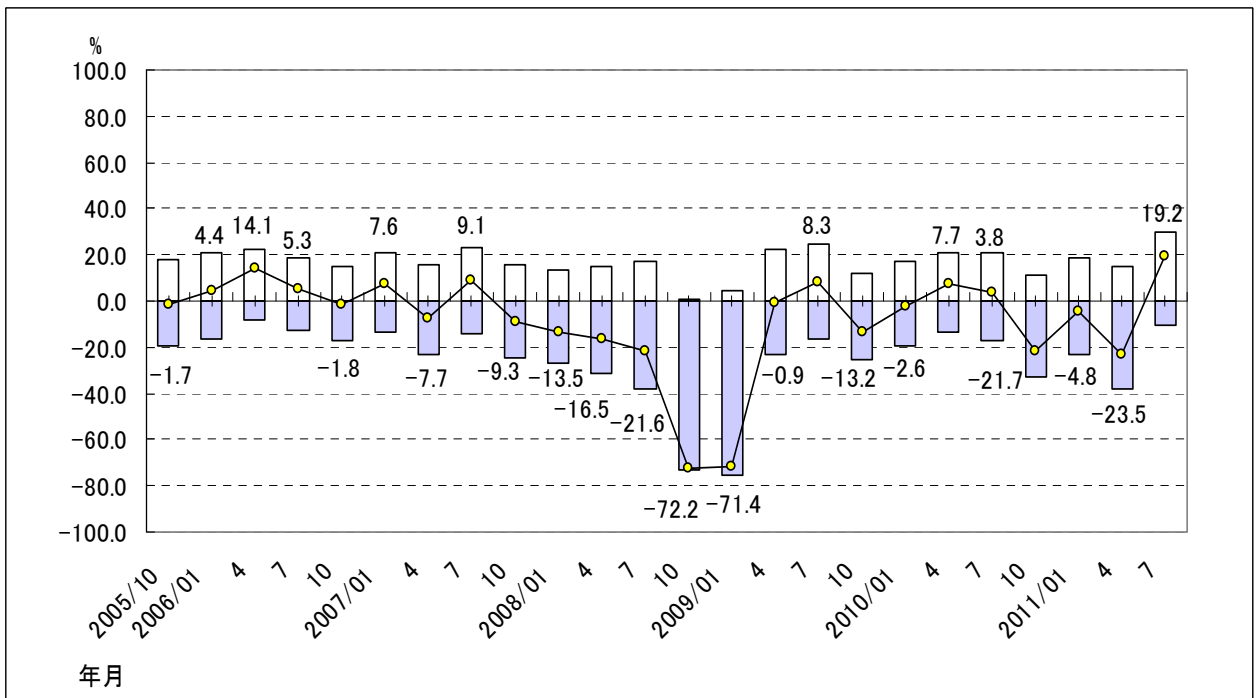
●製造業 主要5業種：「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種：「3ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2. 商業・観光サービス業

①商業

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは43.8%の企業で「好転」したとして、同D Iは31.3と前回調査時の△17.7から大幅に改善し4期振りにプラスに転じた。また、客単価D I及び来店客数D Iのいずれもプラスに転換した。なお、諏訪地方の梅雨明けは平年より12日早く、平均気温も平年よりかなり高かったことから、夏季商材の動きは総体的に堅調となった。

- 食料品 気温の上昇から飲料や果物などの動きは好調だったが、例年は行楽需要の盛り上がる牛肉の販売量は放射能関係の風評被害等から落ち込んだ。また、一部では平成22年産の米の買いだめの動きもきかれる。
- 衣料品 梅雨明けの気温上昇から夏物衣料の出足は良かったが、後半は幾分弱含んだ。
- 自動車 諏訪地方の7月の車庫証明件数（軽除く）は838台とエコカー補助金の駆け込み需要のあった前年同月に比べ△280台（△25.0%）の大幅な減少となった。
- 家電店 デジタル放送への完全移行日の前には関連商品での駆け込み需要がみられた。
- ホームセンター 各種の涼感グッズの売れ行きは引き続き好調である。

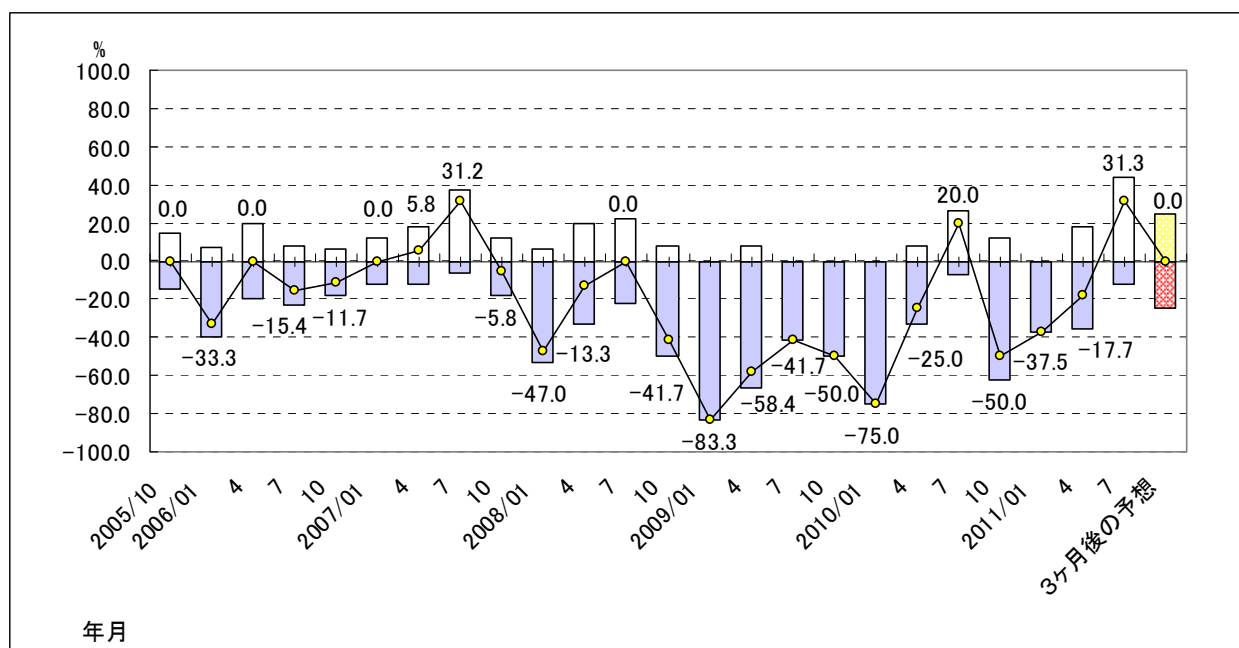
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	16	43.8	43.8	12.5	31.3	16	25.0	50.0	25.0	0.0	16	25.0	50.0	25.0	0.0
客単価	16	31.3	62.5	6.3	25.0	16	12.5	75.0	12.5	0.0	16	18.8	68.8	12.5	6.3
来店客数	16	43.8	43.8	12.5	31.3	16	18.8	50.0	31.3	-12.5	16	12.5	68.8	18.8	-6.3

●商業全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ-8



②観光・サービス業

震災の影響が顕著にあった「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iでは76.2%の施設が「好転」として同D Iは76.2、「宿泊客数D I」では85.7%の施設が「好転」として同D Iは80.9と大幅な回復となった。ただし、「前年同期」と比べた客単価D Iは57.1%の施設で「悪化」として、同D Iは△42.8と前回調査時の△76.2からは回復しているものの、依然としてマイナスでの推移となっている。

今後の秋の観光シーズンの見通しとしては、春に震災の影響でキャンセルになった団体客の戻りを期待する声などがきかれ、「3ヶ月後」の業況予想D Iでも42.9%の施設で「好転」を見込んでおり、同D Iは23.9と前回調査時の△14.3からプラス転換が期待されている。

- 上諏訪温泉 7月の宿泊者数は個人客のほか大口の団体客もあり、総体では前年同月に比べ10%程度増加した。秋以降の集客にも期待感がきかれる。
- 蓼科・白樺湖・車山方面ほか 個人客に加え、学校関係の合宿や林間学校、または研修旅行などの団体客の取り込みも堅調である。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた7月の参拝者数は約62千人と前年同月比+1千人の増加となった。震災後の落ち込みから、団体客の回復がみられる。

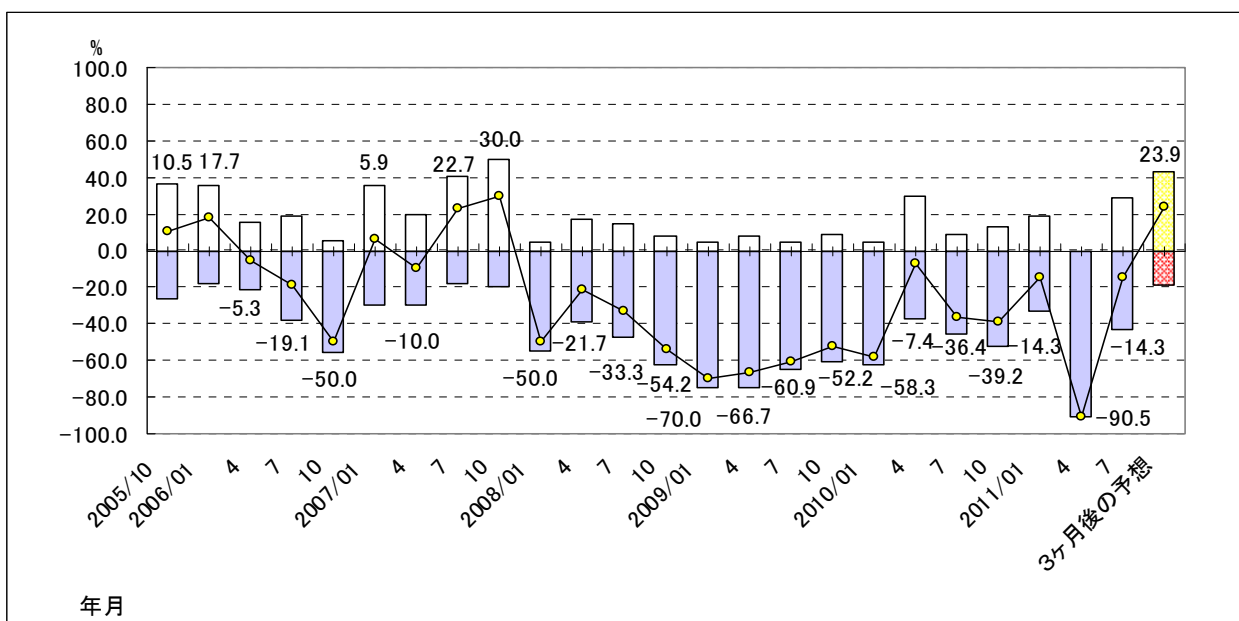
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	21	76.2	23.8	0.0	76.2	21	28.6	28.6	42.9	-14.3	21	42.9	38.1	19.0	23.9
客単価	21	23.8	66.7	9.5	14.3	21	14.3	28.6	57.1	-42.8	21	14.3	61.9	23.8	-9.5
宿泊客数	21	85.7	9.5	4.8	80.9	21	28.6	19.0	52.4	-23.8	21	33.3	38.1	28.6	4.7

●観光・サービス業全社：「前年同期」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ-9



3. 建設業

「3ヶ月前」と比べて業況判断DIは△21.4と前回調査時の△12.5から8.9ポイント悪化し、引き続きマイナスでの推移となっている。平成23年度に入り公共工事の発注は減少傾向にあり、住宅着工も弱含んでいることなどから「3ヶ月後」の業況予想DIでは「好転」を見込む企業はなく、「横這」企業85.7%、「悪化」企業14.3%で同DIは△14.3と厳しい経営環境が予想されている。

諏訪地方の6月の新設住宅着工戸数は94戸で、前年同月の103戸に比べ△9戸(△8.7%)の減少となった。また、平成23年4月から6月までの累計着工戸数は253戸で前年と同数、前年と比べて利用関係別では「持家」が+15戸増加の205戸、「貸家」が△15戸減少の38戸、「給与」は△1戸減少の0戸、「分譲」は+1戸増加の10戸となっている。また、長野県内の6月の新設住宅着工戸数は997戸で、前年同月比+18.3%の増加となっている。前年同月比の利用関係別では、「持家」が686戸で+5.4%増加、「貸家」が221戸で+45.4%増加、「分譲」が90戸で+130.8%増加となった。

なお、震災の影響による断熱材やベニヤ板などの一部の建材の品薄状態はほぼ解消された。

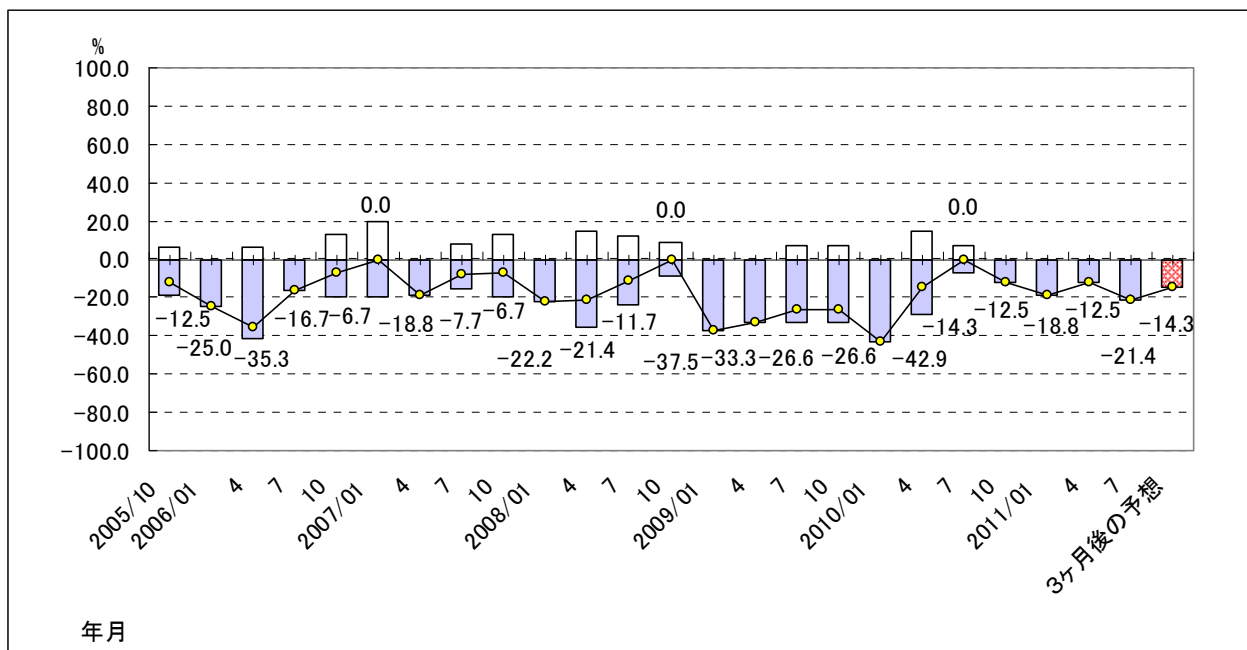
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	14	0.0	78.6	21.4	-21.4	14	14.3	35.7	50.0	-35.7	14	0.0	85.7	14.3	-14.3
受注状況	14	0.0	78.6	21.4	-21.4	14	0.0	78.6	21.4	-21.4	14	0.0	78.6	21.4	-21.4
外注発注量	14	0.0	64.3	35.7	-35.7	14	7.1	35.7	57.1	-50.0	14	7.1	57.1	35.7	-28.6

●建設業全社：「3ヶ月前」と比べて業況判断DIの推移

グラフ-10



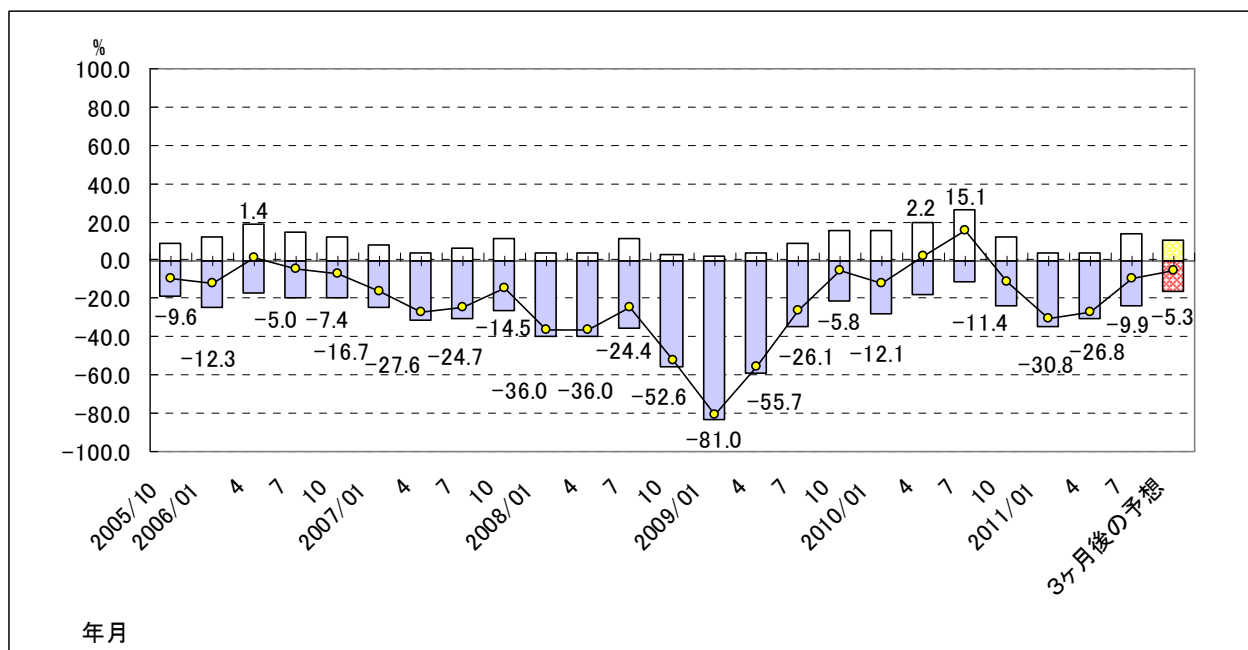
4. 収益性状況

回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは「好転」企業が14.2%、「横這」企業が64.5%、「悪化」企業が21.3%で、同D Iは $\Delta 7.1$ と前回調査時の $\Delta 28.1$ から改善した。

製造業の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは $\Delta 9.9$ とマイナスではあるものの、前回調査時の $\Delta 26.8$ から16.9ポイントの改善となった。また、非製造業の同D Iは0.0と観光・サービス業で「好転」企業が増加したことから、前回調査時の $\Delta 31.5$ から大幅に改善した。

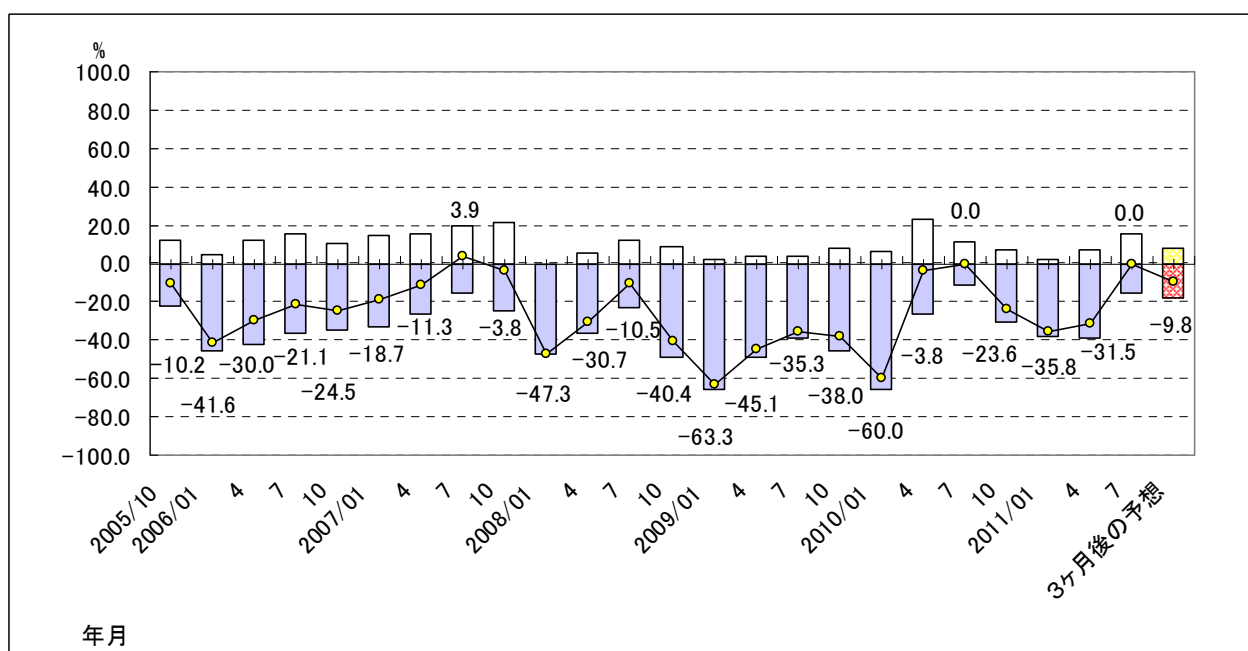
●製造業：3ヶ月前と比べた収益性D I

グラフー11



●非製造業：3ヶ月前と比べた収益性D I

グラフー12



5. 経営上の課題

経営上の課題として①製造業は売上減少、単価引下げ、競争激化をあげる企業が多く、②商業は、単価引下げ、競争激化、③建設業は売上減少、競争激化、④観光・サービス業は売上減少、単価引下げをあげている。その他の項目では、円高の影響や国内製造業の空洞化の進展などがあがっている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	85	62	3	7	13
単価引下げ	60	42	4	3	11
競争激化	44	32	4	6	2
資金繰り	34	23	3	3	5
人件費	25	18	1	0	6
労働力確保	15	13	0	0	2

6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【6月】	ハローワーク諏訪	0.64倍	+0.07ポイント	
手形交換高【7月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	6,067枚	△317枚	
	金額	7,686百万円	+397百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	1枚	△1枚
	金額	73千円	△4,186千円	
電力使用量【7月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	43,427 MWh	△2.7%	
	高压電力計	100,162 MWh	△4.8%	
	合計	143,589 MWh	△4.1%	
車庫証明取扱件数【7月】(諏訪地方合計)		838件	△25.0%	
新設住宅着工戸数【H23.4~H23.6】(諏訪管内)		253戸	±0.0%	

7. 調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

①調査期間 平成23年7月末～8月上旬

②調査内容 「平成23年7月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想

③調査方法 アンケート調査(回答数 下記7)及びヒアリング調査(約130社)

④対象地域 諏訪地域全域

⑤業種 製造業、商業(大型店：売り場面積501㎡以上)、建設業、観光・サービス業

⑥回答企業数 184企業

⑦回答率 68.9%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	200	20	20	27	267
回答数	133	16	14	21	184